

# 年間132万人が利用した 道の駅「伊豆ゲートウェイ函南」 平成29年度運営状況報告

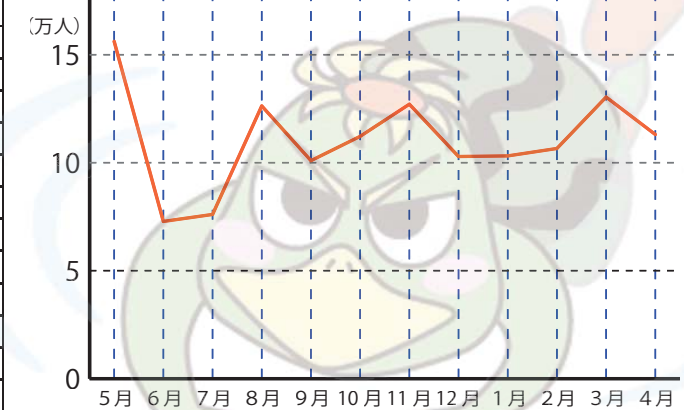


## 利用者数・運営状況

平成29年5月1日にオープンした道の駅「伊豆ゲートウェイ函南」が、1年を経過し当初利用者想定69万人に対し約2倍の132万7千600人が利用しました。

平成29年5月～平成30年4月までの利用者推移

利用月	利用者数
5月	156,168人
6月	72,805人
7月	76,037人
8月	126,291人
9月	100,948人
10月	112,203人
11月	127,093人
12月	102,866人
1月	103,151人
2月	106,591人
3月	130,402人
4月	113,058人
合計	1,327,613人



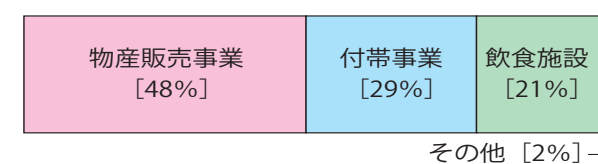
まず物産販売所「いずもん」は、現在町内に住所があり生産、加工などを行う57の個人、法人などで組織する出荷者協議会の会員が、生鮮品や加工品などの商品を提供しているほか、運営企業が仕入販売する土産物などを扱っています。また販売所の一角には、酪農王国オラッチェがソフトクリームなどを販売するブースを設置しており、1年間（平成29年度）の総売り上げは、2億1千万円ほどでした。

飲食施設については、地場産品を扱う3つの飲食店が営業しており、1階にはサイクリストが気軽に休憩できる軽食の「Spoke Cafe」、創作寿司を提供する「いず鮎」、2階には富士山の眺望を楽しみながら食事ができる洋食の「KISETSU」が、特色あるメニューを提供しています。付帯施設は、24時間営業のコンビニが入っており、平成29年度は、20万4千人が利用しました。そのほか自動販売機などを合わせた売り上げが2億2千400万円であり、道の駅全体の総売り上げは、約4億3千600万円となりました。

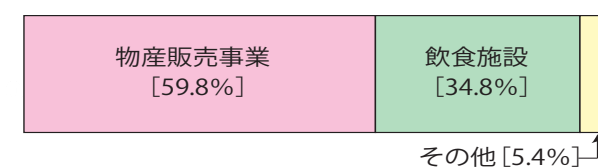
この道の駅は、PFI事業として施設計画から施設整備、そして15年間の維持管理、運営を行うもので、

特別目的会社（SPC）である「いずもんかんぱみパートナーズ(株)」を組織して行っているものです。町の土地及び施設を使用し収益事業を運営する事業は、賃貸料を町へ納め独立採算で運営していくこととしています。平成29年度道の駅に係る町の収入は、約2千153万円ほどでした。また、24時間利用できるトイレや道路情報、観光情報などの発信施設のほか、イベント広場、駐車場、駐輪場などを含めた公共的施設の維持管理、運営に必要な経費は、町が負担しており平成29年度は、約5千817万円でした。

### 道の駅総売上 436百万円



### 町の使用料収入 2,153万円



## 道の駅周辺が目的地に！

道の駅「伊豆ゲートウェイ函南」周辺では、現在2つの事業が進められています。

1つ目は、川の駅の整備で狩野川河川敷を利用し、水辺広場や水防多目的センターなどを整備し、出水時の防災活動のほか平常時には、アウトドアスポーツなどが楽しめる施設を目指しています。



▲川の駅イメージ図

つかりながら富士山の眺望が楽しめる施設が計画されており、12月13日のオープンを予定しています。

これらの施設が完成すると、道の駅・川の駅「伊豆ゲートウェイ函南」周辺エリアは、道路利用者の立ち寄り施設としてだけでなく、目的地として更に多くの観光客が訪れることとなります。町では、この観光客を町内に誘導することにより、地域産業の活性化につなげたいと考えています。



▲道の駅周辺エリア

水防多目的センターには、トイレのほか更衣シャワー室、狩野川に関する資料展示や観光案内所の機能を設けます。水辺広場は、休憩所やイベントなどの開催を想定した芝生広場、子どもたちが川で遊べるワンド（池状の入り江）、ドックラン、カヤックなどの離発着が可能な親水護岸が整備されます。堤防を利用したサイクリング、ウォーキングのほかカヤックでの川下りなどが楽しめる施設となり、平成31年度中

の供用を予定しています。

2つ目は、辛子明太子の老舗かねふくグループが運営する「めんたいパーク」が、道の駅南側隣接地に進出することとなり、現在工事が進められています。主に辛子明太子の製造工場のほか、製造過程が見学できる原材料となるスケソウダラの棲む深海を3Dアートなどの映像で楽しめる施設を計画しています。

製造品の直売や製造品を扱ったフードコートが併設されるほか、試食コーナーや子供たちが楽しめるキッズスペース、ベランダからは足湯に



▲かねふくめんたいパークイメージ図